

2019(令和元)年度 第2回コンクリート常任委員会議事録

日 時：2019年7月9日(火) 14時00分～15時20分

場 所：TKP札幌駅カンファレンスセンター カンファレンスルーム2A

出席者：下村委員長，加藤幹事長，綾野，石田，岩城，上田(隆)，上田(多)，氏家，河合，小林，齊藤，菅俣，田中，谷村，名倉，二井谷，二羽，原田，細田，本間，丸屋，宮里，森川，山口の各常任委員，大内，古市，山路，山本の各委員兼幹事，事務局小川

配付資料：

- 2-0 2019(令和元)年度 第2回 コンクリート常任委員会 議事次第
- 2-1 2019(令和元)年度 第1回コンクリート常任委員会議事録(案)
- 2-2 示方書改訂小委員会・委員構成
- 2-3 102 規準関連小委員会・委員構成
- 2-4 203 示方書連絡調整小委員会・委員構成
- 2-5 既設構造物の健全性評価法の高度化および体系化に関する研究小委員会(重点研究課題)・委員構成
- 2-6 プレキャストコンクリート工法の設計施工維持管理に関する研究小委員会(259委員会)・委員構成
- 2-7 鉄筋定着・継手指針改訂小委員会・委員構成
- 2-8 示方書連絡会議へのコンクリート委員会からの選出委員
- 2-9 示方書に関するコンクリート委員会の取り組み
- 2-10 2019年度コンクリート委員会 一般会計 予算執行状況(案)
- 2-11 コンクリート構造物の設計と連成型性能評価法に関する研究小委員会(351委員会)第2期・委員構成
- 2-12 コンクリート委員会/部材詳細の設計と照査に関する研究小委員会(357委員会)・委員構成
- 2-13 358 締固めを必要とする高流動コンクリートの配合設計・施工技術研究小委員会・委員構成
- 2-14 359 コンクリート構造物の耐凍害性確保に関する調査研究小委員会・委員構成
- 2-15 360 高炉スラグ微粉末を用いたコンクリートの品質・性能評価に関する調査研究小委員会・委員構成
- 2-16 会告 亜鉛めっき鉄筋を用いるコンクリート構造物の設計・施工指針(案)改訂報告会(大阪会場)

議 事：

1. 委員長挨拶

下村委員長より，第2回常任委員会開催にあたっての挨拶があった。主な内容は以下の通り。

・6月14日に土木学会の総会が開催され，丸山久一先生(コンクリート委員会顧問)が功績賞を受賞された。

・同総会の2018年度事業報告では，土木学会の刊行物として，コンクリート標準示方書[維持管理編]，[規準編]を含む21点があったが，2017年度の[設計編]，[施工編]に続き，出版物の増収に貢献していることが報告された。また，2019年度の事業計画では，出版部門がコンクリート委員会と協力して示方書をはじめとする書籍の電子化の検討を進めることが報告された。学会本部のこれらの公式見解を受け，コンクリート委員会としても積極的に検討していく必要がある。

・上記の電子化の流れに沿い，コンクリート常任委員会でも，今回から資料のペーパーレス化を試行した。問題点など意見があればお寄せいただきたい。

2. 委員の自己紹介

前回欠席の委員から簡単な自己紹介があった。

3. 2019年度 第1回コンクリート常任委員会議事録（案）の確認

大内幹事より、前回常任委員会の議事録（案）（資料2-1）の確認があり、異議なく承認された。

審議事項：

1. 第1・2種委員会の委員構成

下村委員長から以下の委員会について、委員交代等についての説明があった。

(1) 示方書改訂小委員会（101委員会）（資料2-2）

前回常任委員会では、委員長に二羽淳一郎委員が承認されていたが、今回、副委員長に丸屋剛委員、幹事長に石田哲也委員が提案され、異議なく承認された。

二羽示方書改訂小委員会委員長より、小委員会の委員構成は、9月のコンクリート委員会に諮る予定であること、2019年度は、各編主査、副査および代表幹事を中心とする運営部会を中心に、多くても20名程度までのメンバーで2～3回程度開催し、改訂の方針を議論する予定であることが述べられた。

ダムコンクリート編は前回改訂を見送ったが、技術の継承の意味もあって、改訂を検討してはどうかとの意見があった。また、基本原則編についても改訂の検討を行うのがよいとの意見があった。

(2) 規準関連小委員会（102委員会）（資料2-3）

委員構成案について説明があり、異議なく承認された。山口規準関連小委員会委員長より、各WG主査および委員ともに、基本的には継続の方向で構成しており、今後、追加等も検討していくことが補足された。

(3) 示方書連絡調整小委員会（230委員会）（資料2-4）

委員構成の変更案について説明があり、異議なく承認された。

(4) 既設構造物の健全性評価法の高度化および体系化に関する研究小委員会（重点研究課題；231委員会）（資料2-5）

構造工学委員会からの追加選出委員を含めた委員構成の変更案について説明があり、異議なく承認された。

(5) プレキャストコンクリート工法の設計施工維持管理に関する研究小委員会（259委員会）（資料2-6）

委員構成の変更案について説明があり、異議なく承認された。なお、塩畑委員に交代した藤野委員の名前が構成表に残っているので削除する。また、緒方委員の所属は、出向元の所属を示している。

(6) 鉄筋定着・継手指針改訂小委員会（260委員会）（資料2-7）

委員構成の変更案について説明があり、異議なく承認された。

(7) 示方書連絡会議へのコンクリート委員会からの選出委員（資料2-8）

示方書連絡会議へのコンクリート委員会からの選出委員について説明があり、異議なく承認された。

2. 示方書に関するコンクリート委員会の取り組み

資料2-9をもとに下村委員長より説明があり、方針として大筋承認した。なお、今後取り組み内容についてご意見を受け付けることとする。また、以下の質問または意見があった。

・出版強化や継続的な講習会実施は常任委員の負担増になる可能性もあるので配慮が必要である。コンクリート教育研究小委員会でも新たな講習内容を企画するための労力は大きい。ただし、ここ数年は、実務者の疑問点となる部分などに焦点をあてた講習を企画した。また、これまでには、委員や講演者の持っているネタを活用した講習も行っており、できるだけ負担を減らすこともできる。なお、講習にあたっては、示方書改訂小委員会との連携も必要と考えられる。

・Q&Aのデータは、同じような質問が繰り返されないようにするためにも公表した方がよい。こ

れまでは、公表の可否について議論されてこなかった経緯がある。なお、コンクリート委員会のHPでこれまでのQ&Aは公開されている。ただし、実務者が参照しやすい場所を検討する余地がある。コンクリート教育研究小委員会でも、講習内容に反映させるため、質問事項などを分析している。

・「若手/中堅技術者のためのコンクリート技術講習会」に類似した講習は地方でも開催されている。そのような取り組みに常任委員が赴いてディスカッションに加わるなどすると有効かつ省力化できると考えられる。

・示方書の継続的な講習会にあたっては、例えば、本編の使い方（コードライター向け）、標準の解釈（初学者向け）など、技術者レベルや職種等のターゲットを絞る必要があると考えられる。なお、標準には、一般的な技術者であれば一読して理解できる技術内容が、本来、示されているべきであることに留意する必要がある。

・出版強化に関して、以前に示方書発刊に伴ってライブラリーで設計例等を出版した際は、各種団体で蓄積していた内容を下地とすることができたこともあり、負担増をできるだけ抑えることができた。新たにライブラリー等を出版するとなると、そのような下地を醸成しておく必要があると考えられる。なお、現行の示方書でも、巻末に試算例などが示されており、これを示方書発刊に合わせて示すか、順次発刊するかなど、示方書の容量や労力等を勘案して考えていくのがよい。

・前回から10年を経過した示方書の英訳版の発刊について、英訳のコストや労力が大きいものの、東南アジア地域などから示方書の内容を参照したいとする要望もあるので、実施していくべき事業と考えられる。このとき、携わる委員の労力を考慮すると、企業とのタイアップなどを模索し、謝金を手当てすべきである。ただし、企業としては、これまで示方書の英訳版を積極的に活用すべき場面で得られておらず、英訳することの効果が伺えないことも事実である。示方書の英訳版を積極活用し、良質なインフラ技術を日本が発信するためには、政府や国交省への働き掛けも必要と考えられる。

3. その他

なし。

報告事項：

1. 2019年度コンクリート委員会予算執行状況（資料2-10）

加藤幹事長より、2019年度のコンクリート委員会の予算執行状況について報告があった。

2. 第3種委員会の委員構成

(1) コンクリート構造物の設計と連成型性能評価方法に関する研究小委員会（351委員会）第2期（資料2-11）

大内幹事より、委員構成の変更について報告があった。

(2) 部材詳細の設計と照査に関する研究小委員会（357委員会）（資料2-12）

大内幹事より、委員構成の変更について報告があった。

(3) 締固めを必要とする高流動コンクリートの配合設計・施工技術研究小委員会（358委員会）（資料2-13）

大内幹事より、委員構成の変更について報告があった。

(4) コンクリート構造物の耐凍害性確保に関する調査研究小委員会（359委員会）（資料2-14）

大内幹事より、委員構成の変更について報告があった。

(5) 高炉スラグ微粉末を用いたコンクリートの品質・性能評価に関する調査研究小委員会（360委員会）（資料2-15）

大内幹事より、公募を経て確定した委員構成についての報告があった。

3. 報告会・講習会の開催案内

大内幹事より、以下の報告会の予定についての報告があった。

- (1) 垂鉛めっき鉄筋を用いるコンクリート構造物の設計・施工指針（案）改訂報告会（266 委員会）
（大阪会場）（資料 2-16）

7 月 30 日開催の東京会場を含めて、関係者への周知が依頼された。

4. 報告会・講習会の開催報告

コンクリート教育研究小委員会委員長の田中委員より、以下の講習会の開催状況について報告があった。

- (1) 若手/中堅技術者のためのコンクリート技術講習会

今回の講習は、「構造物設計の基本と施工・維持管理との連携」をサブテーマとして開催した。ほぼ定員を充足し、アンケート結果も好評であった。

5. その他

- (1) 吉田研究奨励賞への応募について

吉田賞選考委員会幹事の石田委員から、コンクリート分野の研究者、技術者（40 歳以下、会員）に向けた吉田研究奨励賞への応募の周知依頼があった。ここ数年、同奨励賞への応募が減少している傾向にあり、若手研究者を増強していくためにも積極的な応募をお願いしたい。

- (2) 混和材料を使用したコンクリートの物性評価技術と性能規定型材料設計に関する研究小委員会（353 委員会）の取りやめについて

加藤幹事長より、依頼していた委員会取りやめの正式文書が届き、委員長および幹事団で内容に問題ないことを確認し、これをもって正式に委員会の取りやめとすることが報告された。

次回開催：

大内幹事より、9 月 2 日（月）14：00～17:00 ホテルクレメント高松 で開催予定であることが報告された。議題がある場合は、8 月 16 日（金）までに幹事宛に提出する。

また、懇親会は、同日 17:00～、同所にて、コンクリート委員会として開催する。別途連絡されているコンクリート研究者の集い（40 歳以上、全国大会一日目（9 月 3 日（火）開催）とは別開催であることが紹介された。

なお、次回も委員会資料をペーパーレスとし、ウェブファイルマネージャーにアップロードする資料を使用していただきたい旨、協力要請があった。

以上【記録 山本貴士】